第2回 尼崎市立女性・勤労婦人センター運営委員会 会議録(要旨)

- 日 時 : 令和7年2月25日(火) 15時～17時
- 場 所 : 尼崎市立女性・勤労婦人センター 講座室
- 出席者 : 委員7人 ◎:会長、○:副会長
◎武本委員、○森屋委員、奥野委員、西村委員、仲渡委員、
森委員、壹橋委員
事務局4人
文化・人権担当部長、ダイバーシティ推進課長、
ダイバーシティ推進課職員2人
女性センター所長
- 傍 聴:5人
- 会議要旨

1 開 会

2 議 事

(1) 会長、副会長の選任について

会長の選出について、武本委員を会長にとの発言があり、異議はなく武本委員が会長に就任。副会長の選出について、武本会長に一任との発言があり、異議はなく武本会長より森屋委員を指名。

(2) 令和6年度の指定管理者制度モニタリング評価について

事務局 : ——資料をもとに説明——

委 員 : モニタリング評価表に記載の利用者アンケートでは、利用者の満足度が高いようであるが、利用者は固定的か、もしくは新しい利用者も多いのか。

女性センター所長 : 以前から利用されている固定的な利用者が7割から8割を占めるが、相談や啓発事業への参加をきっかけに、新しい利用者も増えてきている。

委 員 : 今年度の国の助成金を活用した「女性のつながりサポート事業」は、評価に値する取り組みであると思うが、助成金の申請に年限はあるのか。

事務局 : 助成金を受けられる期間に決まりはないが、概ね3年程度継続することを想定して実施しており、来年度も継続実施の予定で交付申請を行う。若年層向けや他施設に出向く企画も予定されている。

委 員 : 3年以上継続できると良い。

委 員 : 「就職活動スーツの提供とレンタル」を今年度だけで27人が利用されたとのこと、どのように情報発信しているのか。

女性センター所長：トレピエのホームページやInstagramでの情報発信のほか、市のしごと支援課、ハローワーク、ひょうご仕事と生活センターとも連携して周知を図っている。ここ最近では、4月に向けて就職を目指す方がほぼ毎日支援品を受け取りに来られている。

(3) 令和7年度事業計画について

女性センター所長：——資料をもとに説明——

委員：事業計画6ページ7の「女性のつながりサポート事業」について、具体的にどのような交流を企画しているか。また、同ページ9の「託児事業」の利用者が減少傾向にあるのは、託児自体の需要が減ってきているということか。全国的にも保育所の待機児童が減少傾向にある。

女性センター所長：「女性のつながりサポート事業」について、令和5年度は孤独・孤立を感じている女性を対象に実施し、令和6年度は就労に悩む女性、DV被害に遭っている女性、働く女性のように各回で対象を変え、レジン作りやアロママッサージ、キンパ作りなどを実施することで、楽しみながら交流できる場を提供した。令和7年度はトレピエや生涯学習プラザのほか、ユース交流センター、自立支援ホームにも出向いて交流の場を提供し、支援者交流会も企画していきたい。

また、「託児事業」の利用者は、保育施設等が充実してきたことにより減少傾向にあると思われるが、育休中の方や幼稚園が夏休み等の長期休暇の時期には多く利用されている。

委員：新たに電話での男性相談を始めるとのことだが、例えばトレピエで実施している法律相談の対象者に男性を加えると、市の市民相談担当が実施している法律相談と変わらなくなる。DV被害にあっている女性の立場に立つと、相談に来ている男性と接点があることはリスクであり、被害女性の相談の道を閉ざしてしまう可能性がある。トレピエでの男性相談の実施については、相談員を分けるなどにより、利害相反が起こらないように慎重に検討いただきたい。

女性センター所長：委員のご意見はとてもよく理解できる。男性相談の実施内容については、今後もケース会議をするなどして検討をしていく。

委員：DVに関する相談はDVセンターで対応するのか。

女性センター所長：DVセンターの相談可能時間内に緊急を要する相談があった場合はDVセンター繋ぐが、DVセンターが休みである土日はトレピエで対応することもある。

(4) 尼崎市立女性・勤労婦人センターの今後のあり方について

委員：トレピエに貸館機能が備わってこそ、女性団体協議会をはじめとしたグループでの活動が成り立っており、貸館機能がトレピエから切り離されることは、長年にわ

たって築かれたネットワークやグループの存続に関わる切実な問題である。

また、これまでの貸館利用者がトレピエに来館することなく新図書館に流れてしまうと、トレピエ内では限られた人としか交流できない。そのような状況で、これまでトレピエが果たしてきた役割を果たし続けることができるのか心配である。

市側とは何度か意見交換をしてきたが、まだまだ利用者側の思いが伝えきれていないし、整備計画の中身を理解しきれていない。

委員：トレピエの貸館機能は重要な役割を果たし、貸館利用をきっかけに相談に来られる場合もあり、男女共同参画機能と貸館機能は密接に関連している。そのような繋がりをどのように維持するのかという意見だと思うが、説明のあった整備計画は決定事項なのか。

事務局：現時点における方針は説明のとおりである。都市公園法上、公園内に整備できる施設は限定されており、トレピエの位置づけが都市公園法に規定する社会福祉施設に準ずる施設であるのかが争点になるが、そういった施設であるとは整理できないために公園内に設置することができない旨を国や県にも確認している。

男女共同参画社会づくり機能の拠点施設は、関係団体や陳情者などのお話を聞く中で図書館との連携が取りやすい現在地で整備する方針となり、相談事業や託児、啓発事業等を実施するための諸室を確保する。

図書館との連携手法は今後の運用の中で考えていくが、積極的に連携する中で人の流れを循環させることができれば良いと考える。

委員：法律の壁は越えられないので、図書館との連携なども含め、現在地での建て替えがベターな選択ということであると思う。施設の規模などは変わるかもしれないが、機能を後退させないようにする必要がある。

現在地での建て替え期間の運営はどのようになるのか。

事務局：建て替え期間中は仮移転先で運営することになる。解体して建て直すには2～3年かかるとされており、仮移転先は現時点では未定である。図書館の供用開始は早くて令和11年度であり、トレピエの解体はその後になるので、5年以上先である。

委員：現トレピエも建物の老朽化が激しいのではないか。

事務局：指定管理者が日々の点検を丁寧に行うことで不具合箇所の修繕を行い、安全管理を徹底しており、今後も安全に施設運営を続けていく。

委員：「女性センターのこれからを考える会」は女性団体協議会とは異なる団体か。

委員：「女性センターのこれからを考える会」の中には、女性団体協議会の会員が多い。

委員：神戸市が運営する女性向けコワーキングスペースである「あすてっぷコワーキング」など、他都市の先進事例を参考にするほか、共働きの増加している中で必要とされる支援など、長期スパンで時代のニーズにあった新施設のあり方を考える必要がある。

委員：新トレピエにも情報資料室を作るのか。やはり図書館ではDVなどの本は借りにくいのか。

事務局：DVや性暴力、離婚、性の多様性など、図書館では借りにくかったり、置いていなかったりする本を引き続きトレピエの情報資料室に蔵書するのが良いと考えている。

女性センター所長：トレピエの情報資料室は、各種相談に来られた方がその場で関連図書を借りられるという特徴があり、利用者に活用されている。

委員：学生時代、自宅の隣に男女共同参画センターがあり、利用していた。その資料室には図書館とは比べものにならない数の専門的な本があり、利用者からの需要はあるように感じた。

トレピエの「機能の方向性」は今後見直していくのか。今はこれで良くても、時代とともに求められる機能も変化していくので、都度見直していく必要がある。

貸室の料金や減免については、機能の方向性に合う範囲で考えると良いと思う。

事務局：設置目的に合致していれば減免可能となっている。

今のトレピエの設置目的は、女性の自立、社会参加の促進、女性労働者の福祉の増進となっているが、近隣他都市では男女共同参画センターが主流である。減免規定については、今後新施設の設置目的を議論していく中で決めていくことになる。

委員：トレピエの情報資料室の運営については、もう少し工夫が必要であると感じる。本の収集・貸し出しを行うだけでなく、男女共同参画に関する情報発信が重要であるので、その点について「トレピエ機能の方向性」の資料に追記してもらいたい。

事務局：SNSでの情報発信も含め、「トレピエ機能の方向性」に追記する。

(5) その他

委員：他に何かあるか。

事務局：今年度の運営委員会は今回が最後となる。来年度の開催については、6月～7月に実施予定である。

委員：本日はこれで閉会する。

以上